

留学生 産学官で全面支援

「介護福祉士」資格取得目指し



留学生のレ・ティ・ゴック・ディエップさん（中央）と記念撮影する工藤祐直町長（右から3人目）ら

学費減免、住居・生活費自己負担なし

南部 南部町は本年度、動力不足解消に向け、2016年に町と同八戸学院短期大学 短期大学部が締結した協定に基づく受け入れの第1号。住居提供、生活費支援、就職先確保、学費減免など産学官連携による充実した体制で迎え、留学生の国家資格取得をサポートする。（大西桂介）

「役に立ちたい」ディエップさん

町の呼びかけに、「ハビネスながわ」を運営する社会福祉法人ファミリー（佐藤和夫会長）が協力し、19年度から留学生を募集。新型コロナウイルス流行による渡航制限などで延期されていたが、ディエップさんが今月19日に入国、来町した。

同短期大学部はディエップさんの国家資格取得へ向け、入学金免除と奨学金利用、無料送迎などで資金面を援助。町は住居の無償提供や国民健康保険補助、渡航費の助成や日本語教育などの生活支援を行う。受け入れ先の事業所は生活費を負担し、在学中のアルバイト先の紹介も行う。

ディエップさんと同短期大学部、事業所関係者は20日、工藤祐直町長を表敬訪問。工藤町長は「町を挙げて生活面の支援をするので、安心して勉学に励んでほしい」とエール。佐藤会長は「日本語も堪能で優秀な学生なので楽しみ」。同短期大学部介護福祉学科の赤羽卓朗学科長は「地域住民とも交流しながら、2年間でさまざまな技術や知識を身に付けてほしい」と期待を込めた。

ディエップさんは「南部町は果物がおおいしく、景色もいい。日本語は難しいが、資格取得のために頑張って勉強し、介護の現場で役に立ちたい」と抱負を語った。